

## 086 天から降った命のパン(2)

ヨハネによる福音書 6 : 36~71

36 **しかし、前にも言ったように、あなたがたは（最高のしるしである）わたしを（日々）見ているのに、（心が頑なで不信仰のあなたがたは）信じない。**

37 **父がわたしにお与えになる人は皆、わたしのところに来る。わたしのもとに来る人を、わたしは決して追い出さない。**

38 **わたしが天から降って来たのは、自分の意志を行うためではなく、わたしをお遣わしになった方（→父なる神）の御心を行うためである。**

39 **わたしをお遣わしになった方の御心とは、わたしに与えてくださった人を一人も失わない（→永遠の保証）で、終わりの日に復活させる（→携挙、再臨の約束）ことである。**

→終わりの日：イエスは、神がすべての人々を裁くその時のことを言っている。神の子イエスを信じる者は復活し、永遠の命を得る（次節 6 : 40）。

40 **わたしの父の御心は、子を見て信じる者が皆永遠の命を得ることであり、わたしがその人を終わりの日に復活させることだからである。」**

41 ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から降って来たパンである」と言われたので、イエスのことをつぶやき始め、42 こう言った。

「これはヨセフの息子のイエスではないか。我々はその父も母も知っている。どうして今、『わたしは天から降って来た』などと言うのか。」

→つぶやき（呟き）→つぶやく：ぶつぶつと小声で言う。くよくよひとりごとを言う。

→ヨセフの息子：マタイとルカの福音書は、マリアが身ごもったとき、マリアは処女だったと記す（マタイ 1 : 18、ルカ 1 : 30~35）。マリアの夫ヨセフはナザレ出身の大工だった（マタイ 1 : 18~2 : 23）。

ルカによる福音書は、ヨセフの先祖の名前を挙げて、誰もがイエスはヨセフの子だと思っていたことを明らかにしている（ルカ 3 : 23~38）。

43 イエスは（叱責し）答えて言われた。

「つぶやき合うのはやめなさい。44 **わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとへ来ることはできない。わたしはその人を終わりの日に復活させる。**45 **預言者の書**（イザヤ書）に、『**彼らは皆、神によって教えられる**』と書いてある（→イザヤ書 54 : 13）。父から聞いて学んだ者は皆、わたしのもとに来る。46 **父を見た者は一人もいない。神のもとから来た者だけが父を見たのである。**47 **はっきり言うておく。信じる者は永遠の命を得ている**（→NIV : Very truly I tell you, the one who believes has eternal life./NKJV:Most assuredly, I say to you, he who believes in Me has everlasting life.）。

48 **わたしは命のパンである**（→NIV, NKJV : I am the bread of life.）。

→預言者のことをヘブライ語で「ナービー」という。語源的には、「呼ぶ」という意味のアッカド語動詞「ナバーウ」から派生した単語で、「呼びかける人」という意味だった。しかし、旧約聖書では、その原意は意識されず、直接、神の言葉を聞き、それを人々に伝える者と理解された。

予言ではなく、預言と表記するのは、彼らの活動の眼目が将来起こる出来事を「予告」することにはではなく、現状に関わる神の言葉を聞き、預り、これを人々に告知することに置かれていたからである。

かつて、預言者は幻を見る人、「見者」と呼ばれていた。→サムエル記上 9 : 9

→イザヤ書 54 : 13

あなたの子らは皆、主について教えを受け／あなたの子らには平和が豊かにある。

49 **あなたたちの先祖は荒野野で（神が与えられた天からの）マンナを食べたが、死んでしまった。**

50 **しかし、これは、天から降って来たパンであり、これを食べる者は（肉体は死んでも、魂は）死なな**

い。

51 わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べる（つまり、わたしを信じる）ならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生きかすためのわたしの肉のことである（→リビング・バイブル：このパンは、人類の救いのためにささげるわたしの体なのです。）

→（回復訳解説参考）この時点で、パンは肉となります。パンは植物の命に属し、それはただ養うためのものです。肉は動物の命に属し、養うためだけでなく、贖うためのものでもあります。人が墮落する前、主は命の木でした（創世記2：9）。命の木はただ人を養うためにありました。しかし人が罪へと墮落した後、主は小羊とされました（1：29）。小羊は人を養うためだけでなく、人を贖うためのものでもありました（出12：4、7～8）。

「永遠に生きる」という言葉です。肉体的な命は、誰であれ永遠ではありません。そういう意味では、永遠に生きることはできません。しかし、神様とそのパンを食べた者との関係・つながりは、生きている時も死んだ後もずっと永遠に続くのだ、という信仰を表しています。つまり、このパンを食べる者は、たとえどんなに孤独な状況にあっても、自分をいつも見守ってくださる神が共におられ、決して独りではないのです。ですから肉体的な死を迎えても、神の民としての交わりの中におかれていることに変わりはないのです。食卓に集まって、神様からいただいた同じパンを食べる兄弟姉妹という交わりは、神様との交わりにおいて永遠に続くのです。

52 それで、ユダヤ人たちは、「どうしてこの人は自分の肉を我々に食べさせることができるのか」と、互いに激しく議論し始めた。

→（リビング・バイブル）ユダヤ人たちは、イエスがいったい何を言っているのかと、あれこれ議論し始めました。「なんてことを言うんだ。自分の体を食べさせるなんて、そんなことができるはずないじゃないか。」

53 イエスは言われた。 [比喩的表現、非常に重要な啓示である]

「はっきり言っておく。人の子の肉を食べ、その（贖いのための）血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。

54 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。

→（回復訳解説参考）ここでは、肉と血が分離して述べられています。肉と血が分離することは、死を示します。ここで主は明らかにご自分の死、すなわち、殺されることを示されました。主はわたしたちのために体を与え、血を流されました。それは、わたしたちが永遠の命を持つためです。・・・肉を食べ、血を飲むとは、十字架上でわたしたちのために行なわれたことを信じることによって、命と命の供給として、イエスを、その贖いにおいて受け取ることです。

55 わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。

56 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり（→とどまり、メノウ：ギリシア語）、わたしもまたいつもその人の内にいる。

57 生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる。

58 これは天から降って来たパンである。先祖が食べたのに死んでしまったようなものとは違う。このパンを食べる者は永遠に生きる。」

59 これらは、イエスがカファルナウムの会堂で教えていたときに話されたことである。

→会堂にあたるギリシア語はシュナゴーグは、「集まり」の意。ローマ軍の将校は、カファルナウムのユダヤ人のために集会所を建てた。カファルナウムには、ローマ兵が駐在していた。イエスはナザレから

カファルナウムに移っていた。

60 ところで、(十二使徒以外の) 弟子たちの多くの者はこれを聞いて言った。「**実にひどい話だ。だれが、こんな話を聞いていられようか。**」

61 イエスは、弟子たちがこのことについてつぶやいているのに気づいて言われた。

「**あなたがたはこのことにつまずくのか。62 それでは、(天と地の仲介者である) 人の子 (イエス) がもといた所に上るのを見るならば……。63 命を与えるのは“霊”である。肉は何の役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、命である。**

64 **しかし、あなたがたのうちには信じない者たちもいる。」**

64b イエスは最初から、信じない者たちがだれであるか、また、御自分を裏切る者がだれであるかを知っておられたのである。

65 そして、言われた。「**こういうわけで、わたしはあなたがたに、『父からお許しがなければ、だれもわたしのもとに来ることはできない』と言ったのだ。』**

66 このために、弟子たちの多くが離れ去り、もはやイエスと共に歩まなくなった。

67 そこで、イエスは十二人 (の使徒たち) に、「**あなたがたも離れて行きたいか**」と言われた。

68 シモン・ペトロが (真っ先に) 答えた。「**主よ、わたしたちはだれのところへ行きますようか。あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。69 あなたこそ神の聖者であると、わたしたちは信じ、また知っています。』**

70 すると、イエスは言われた。「**あなたがた十二人は、わたしが選んだのではないか。ところが、その中の一人は悪魔だ。』**

71 イスカリオテ (→ケリオテ出身の男) のシモンの子ユダのことを言われたのである。このユダは、十二人の一人でありながら、イエスを裏切ろうとしていた。

→悪魔はサタンの手下で神の敵と見なされていた。イエスは、十二使徒の一人ユダがイエスを裏切ると言っている。

→イスカリオテ：嘘つき男、裏切り男 (マタイ 10 : 4)

### 【参考】イエスの肉と血

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 4 / 聖句等の総数 33250 <肉>4個<血>4個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : 肉・血]
S ヨハネによる福音書	6:53 イエスは言われた。「はっきりしておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。	
S ヨハネによる福音書	6:54 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。	
S ヨハネによる福音書	6:55 わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。	
S ヨハネによる福音書	6:56 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。	